３ページ　社会の取り組み

**制服のズボンとスカート、好きな方を選べる学校もあるねんて**

文部科学省から各学校に相談対応を求める通達が出ています。中高の制服で、ズボンとスカートを選択可能にしている学校もあります。学生支援の組織がある大学もあります。

**履歴書の性別欄、なくなるかもしれへんで**

日本規格協会は、JIS規格の参考例として公表していた性別欄や顔写真欄のある履歴書を、2020年7月9日付で様式例から削除しました。履歴書の性別欄を巡っては、以前から「面接段階でアウティングを強要される」など、トランスジェンダー当事者から削除を求める声があがっていました。公正な採用のためにも、近い将来、履歴書から性別欄がなくなるかもしれません。

**パートナーシップ登録制度のある自治体がどんどん増えてるらしいで**

パートナーシップ登録制度のある地方自治体はどんどん増えており、病院での家族証明、生命保険、住宅連帯ローン、公営住宅への入居、企業の福利厚生など、同性パートナーを家族として扱う事例が増えてきています。2019年には、札幌、東京、名古屋、大阪、福岡で、同性婚の実現を求める「結婚の自由をすべての人に」訴訟がはじまりました。

**「オカマみたいやな」「あの人、元は男らしいで」「女なら化粧くらいせんと」「男なら結婚して家庭を持って一人前やで」などなど。そういう言い方はもうアカンねんで**

これらの言葉はすべてハラスメントになります。LGBTQだけに限らず、不快に感じる人がたくさんいることも知っておきましょう。厚生労働省もLGBTQに関して、セクハラ指針やパワハラ指針、労働基準法に基づくモデル就業規則などでも明記されています。東京都や大阪府等では、SOGIによる差別禁止・理解増進の条例ができました。ハラスメントは、日常に潜む問題であり、誰もが当事者意識を持つことが重要です。

**「最近のテレビではLGBTQの人よく見るけど、自分の周りにはおれへんわ」…それってホンマかな？**

三重県が全日制高校を対象に行った調査では、10%がLGBTQでした。10人に1人は、性的マイノリティだということになります。友達や家族の中にもLGBTQの人がいる、というのは珍しいことではありません。しかし実際に自身の性のあり方をオープンにしている人はまだまだ少ないのが現状です。なかなか存在は見えないけれども、自分の周りにもいるんだ、と意識することが大切です。